

あ と が き



冒頭でも書きましたが、最近の2内科は臨床でとても忙しいです。13年前に赴任して以来、臨床の質・量を高めて、それを教育・研究に活用することを目的にして来ました。循環器内科診療はだんだん活性化されて来ていますが、心臓外科も教授をはじめモチベーションが高く、手術の質も数も良くなっています。腎臓も大学病院・若松病院の透析ベッドは満杯ですし、シャント作成・PDカテーテル挿入・腎生検等も増加しています。腎生検の勉強に他大学腎臓内科から勉強に来るほどになっています。このように臨床の質・量は徐々に高まっています。今後はこれを教育・研究にさらに活用することが課題です。この中で「私が果たすべきことは何か?」とよく考えます。2内科の活動全体の中で私は例えばカテーテル治療等をすることはできず医局員達は私ができないことを日々行っています。そうしますと当然ではありますが、私ができることや考えていることを医局員に示し、伝えて行くことが私の使命です。研究をいっしょにしたり（主に論文作成です、仮説提示や論文中の全ての文章のベクトルが仮説と合致しているか?に配慮した執筆等）、私が日ごろ思っている現在の医療に対する疑問（例えば1:プラーク破裂→急性冠動脈閉塞→ステント治療→結果良好ですが、ステント治療は動脈閉塞には合目的ですが、そもそものプラーク破裂に対してステントはどのような効果を持っているのか?、2:肥大型心筋症は左室壁肥厚と内腔狭小を2大特徴とするが、病理所見では心筋細胞の肥大や間質線維化としか記載されていない、壁肥厚の説明にはなるが内腔狭小の説明にはなっていない、病理で見えていない肥大型心筋症のもう1つの本態とは何か?等）をカンファレンスの時に提示したりすることが私のできることや考えを医局員に伝えて行くことになると思います。この2つの疑問はインターベンション専門医や心筋生検診断を精力的に行っている病理の専門医も知りませんでした。論文作成やこういった現在の医学に対する疑問に興味を持つ若手が出てくれば、私の考えを進化させたり、疑問を解決したりできるようになると思います。病院長としての任期も1年を切りました。「産業医科大学病院にこれ（まだ秘密です）が必要であるがまだない、ぜひ新設したい!」と思っていることが今まで挫折していましたが少し希望が見えてきました。実現できるかもしれません。このような2内科の中や外の事を夢見ながら仕事をしています。今後も全力を尽くしますので、これまで以上に
ご支援・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

令和元年7月 尾 辻 豊

産業医科大学第2内科学教室便り 第12号

令和元年7月 発行

発行編集 産業医科大学医学部第2内科学教室
北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号
TEL 093-691-7436
FAX 093-691-6913
https://www.uoeh-u.ac.jp/kouza/2nai/intro_j.html

印刷 株式会社 ペイジ
北九州市若松区青葉台西六丁目2番9号
TEL 093-701-6637 FAX 093-701-6638